

# 交付運用報告書

## スーパーファンド・ジャパン

### サブファンド・グリーン、サブファンド・グリーンC

ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て、米ドル建て）

作成対象期間（第14期）：自 2022年1月1日 至 2022年12月31日

#### ～ 受益者の皆様へ ～

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当サブファンドは、オーストリア・ウィーンにて創立されたスーパーファンドグループの、外国籍公募投資信託です。

ケイマン諸島における分別ポートフォリオを運用する適用免除有限責任会社として登録され、投資会社としてのみ活動するマスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドへの投資を通じて、証券市場の動静から独立した投資形態を投資家の皆様に提供するために設立されました。スーパーファンドの投資顧問会社であるスーパーファンド・キャピタル・マネジメント・インクによる、トレーディング・ソフトウェアを使用した最新の取引システムに基づき、マスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドは運用されます。

ここに、当サブファンドの第14期の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

	第 14 期末							
	サブファンド・グリーン						サブファンド・グリーンC	
	円・クラス	米ドル・クラス	ゴールド 円・クラス	ゴールド 米ドル・クラス	シルバー 円・クラス	シルバー 米ドル・クラス	円・クラス	米ドル・クラス
1口あたり純資産価額	69.48円	0.75米ドル	130.32円	1.01米ドル	99.55円	1.12米ドル	65.30円	0.60米ドル
純資産総額	626百万円	129万米ドル	1,271百万円	61万米ドル	155百万円	262万米ドル	135百万円	87万米ドル
第 14 期								
騰落率	△13.28%	△22.68%	△7.38%	△21.71%	△0.45%	+12.00%	△20.89%	△29.41%
1口当たり分配金額	0円	0米ドル	0円	0米ドル	0円	0米ドル	0円	0米ドル

(注1) 純資産総額は、1口あたり純資産価額に、当期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書（全体版）に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注2) 騰落率は、税引前の分配金（もしあれば）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

(注3) 1口当たり分配金額（もしあれば）は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

(注4) サブファンド「グリーン」（シルバー円・クラス及びシルバー米ドル・クラス）については、2022年9月1日より運用が開始されたため、2022年9月1日から2022年12月31日の期間の騰落率を表示しています。

#### その他記載事項

運用報告書（全体版）は代行協会のウェブサイト（<https://www.superfund.co.jp>）にて電磁的方法により提供しており、「ドキュメント」において閲覧及びダウンロードすることができます。

※ 当サブファンドの運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【管理会社】

【代行協会員】

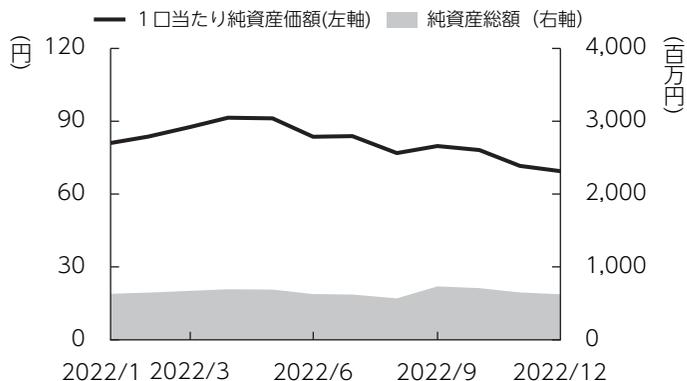
スーパーファンド・ジャパン・  
トレーディング（ケイマン）リミテッド

スーパーファンド・ジャパン株式会社

# 運用経過

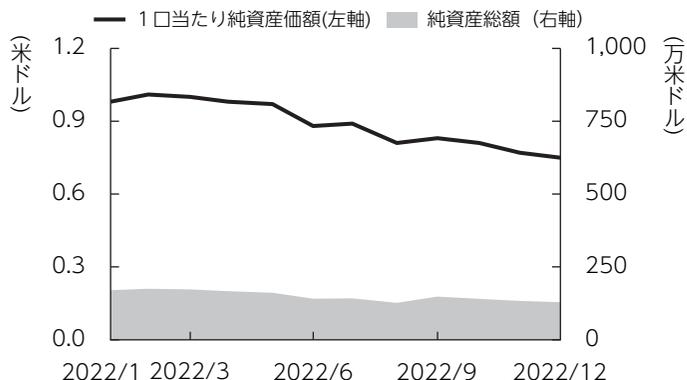
## ■ 当期の1口当たり純資産価額等の推移について (2022年1月1日～2022年12月31日)

### サブファンド・グリーン 円・クラス



第13期末の 1口当たり純資産価額	80.12円
第14期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	69.48円
騰落率	△13.28%

### サブファンド・グリーン 米ドル・クラス



第13期末の 1口当たり純資産価額	0.97米ドル
第14期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0米ドル)	0.75米ドル
騰落率	△22.68%

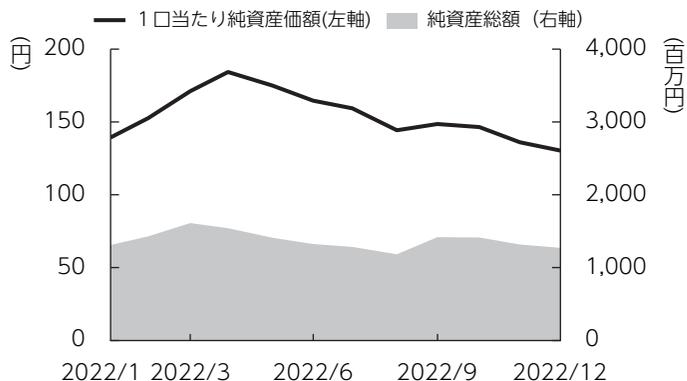
(注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 1口当たり純資産価額は、第13期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。

(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

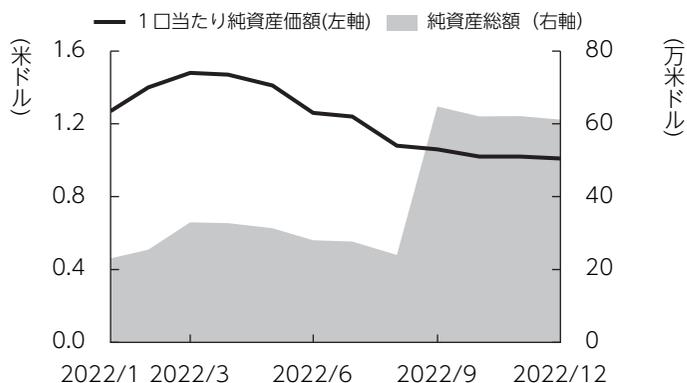
(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

## サブファンド・グリーン ゴールド円・クラス



第 13 期 末 の 1口当たり純資産価額	140.71円
第 14 期 末 の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	130.32円
騰 落 率	△7.38%

## サブファンド・グリーン ゴールド米ドル・クラス



第 13 期 末 の 1口当たり純資産価額	1.29米ドル
第 14 期 末 の 1口当たり純資産価額 (分配金0米ドル)	1.01米ドル
騰 落 率	△21.71%

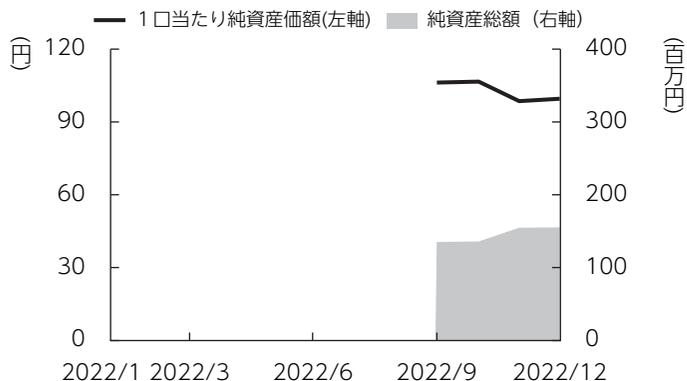
(注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 1口当たり純資産価額は、第13期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。

(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

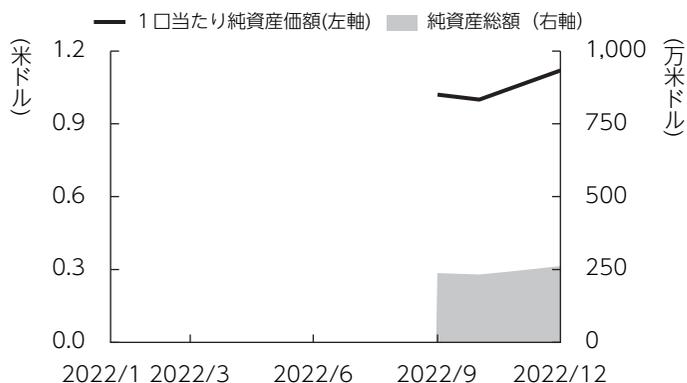
(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

## サブファンド・グリーン シルバー円・クラス (ファンドの運用は2022年9月から開始)



設 定 時 の 1口当たり純資産価額	100円
第 14 期 末 の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	99.55円
騰 落 率	△0.45%

## サブファンド・グリーン シルバー米ドル・クラス (ファンドの運用は2022年9月から開始)



設 定 時 の 1口当たり純資産価額	1.00米ドル
第 14 期 末 の 1口当たり純資産価額 (分配金0米ドル)	1.12米ドル
騰 落 率	+12.00%

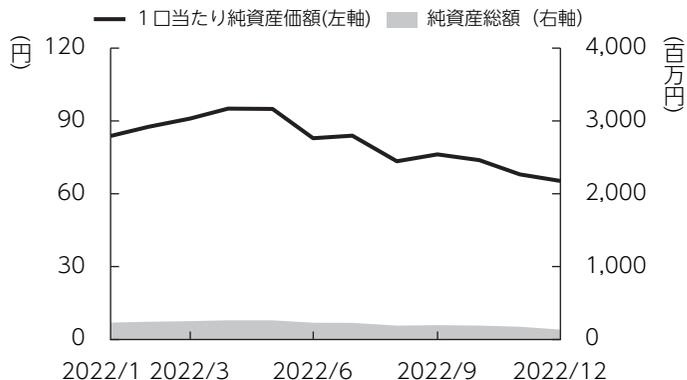
(注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。

(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

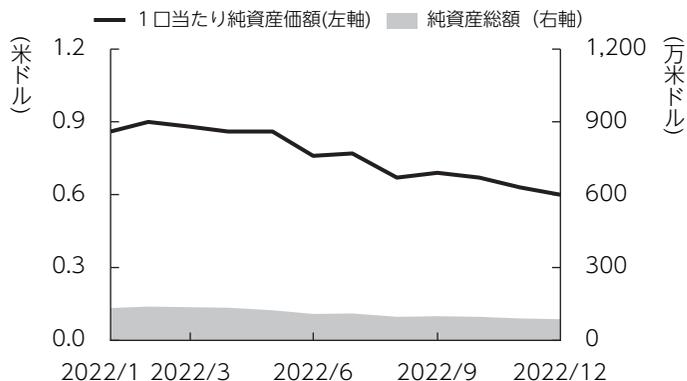
(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

## サブファンド・グリーンC 円・クラス



第13期末の 1口当たり純資産価額	82.54円
第14期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	65.30円
騰落率	△20.89%

## サブファンド・グリーンC 米ドル・クラス



第13期末の 1口当たり純資産価額	0.85米ドル
第14期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0米ドル)	0.60米ドル
騰落率	△29.41%

(注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 1口当たり純資産価額は、第13期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。

(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

## ■ 1口当たり純資産価額の主な変動要因

### 【円・クラス、米ドル・クラス】

実質的に投資している金融先物市場・商品先物市場における市場の変動率の上昇により、当サブファンドが採用するトレンドフォロー戦略による取引システムが、様々な指数の上昇・下降トレンドに追随することでキャピタルゲインを確保します。一方、上昇又は下降トレンドに追随した後、市場価格のトレンドが変換することによりキャピタルロスが生まれます。円建てクラスは、為替が円安に変動することでキャピタルゲインが生まれ、円高に変動することでキャピタルロスが生まれます。

### 【ゴールド円・クラス、ゴールド米ドル・クラス】

実質的に投資している金融先物市場・商品先物市場における市場の変動率の上昇により、当サブファンドが採用するトレンドフォロー戦略による取引システムが、様々な指数の上昇・下降トレンドに追随することでキャピタルゲインを確保します。一方、上昇又は下降トレンドに追随した後、市場価格のトレンドが変換することによりキャピタルロスが生まれます。加えて、金価格の上昇によりキャピタルゲインが生まれ、下落によりキャピタルロスが生まれます。さらに、円建てクラスは、為替が円安に変動することでキャピタルゲインが生まれ、円高に変動することでキャピタルロスが生まれます。

### 【シルバー円・クラス、シルバー米ドル・クラス】

実質的に投資している金融先物市場・商品先物市場における市場の変動率の上昇により、当サブファンドが採用するトレンドフォロー戦略による取引システムが、様々な指数の上昇・下降トレンドに追随することでキャピタルゲインを確保します。一方、上昇又は下降トレンドに追随した後、市場価格のトレンドが変換することによりキャピタルロスが生まれます。加えて、銀価格の上昇によりキャピタルゲインが生まれ、下落によりキャピタルロスが生まれます。さらに、円建てクラスは、為替が円安に変動することでキャピタルゲインが生まれ、円高に変動することでキャピタルロスが生まれます。

## ■ 費用の明細 (2022年1月1日～2022年12月31日)

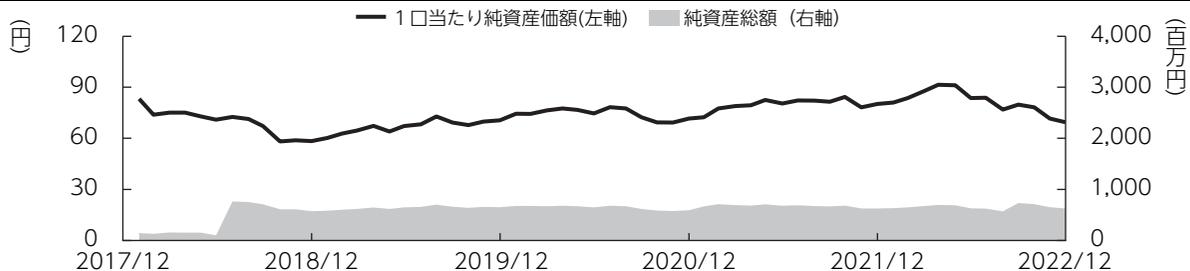
項目		比率又は金額	項目の概要
管理報酬		各サブファンドの純資産価額の年率0.10%	受託会社、事務管理会社及びカストディアンその他の者との間のやりとり、当サブファンドの活動に関連する契約の管理、申込及び償還を含む投資活動の運用管理の対価
代行協会員報酬		各サブファンドの純資産価額の年率0.10%	日本の法令及び日本証券業協会の規則に従い、受益者への目論見書や財務書類を送付し、純資産価額を公表する等の業務に対する報酬
受託会社報酬		各サブファンドにつき年間11,000米ドル	信託証書に従って行う当サブファンドの受託業務に対する報酬
事務管理報酬	当ファンドの事務管理及び振替代行報酬	サブファンド「グリーン」：年間5,400米ドル サブファンド「グリーンC」：年間5,400米ドル	各評価日における純資産価額の計算、受益権者名簿の管理、締結された申込に係る契約及び申込の受領並びに処理、電磁的方法による受益証券の発行証明及び保有報告書の作成並びに送付などの役務の対価
	年次財務諸表の作成	当ファンドにつき年間1,500米ドル	関連する規制に則した年次財務諸表（監査済み）の作成及びその補助の対価
	ポータルサイトへのFATCAデータのアップロード	当ファンドにつき年間500米ドル	当ファンドのFATCAルール遵守のための作業の対価
	ポータルサイトへのCRSデータのアップロード	当ファンドにつき年間500米ドル	当ファンドのCRSルール遵守のための作業の対価
その他の費用（当期）		0.19%	監査費用、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用

(注1) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額を当サブファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2) 各項目の費用は、サブファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

## ■ 最近5年間の1口当たり純資産価額等の推移について (2017年12月31日～2022年12月31日)

### サブファンド・グリーン 円・クラス



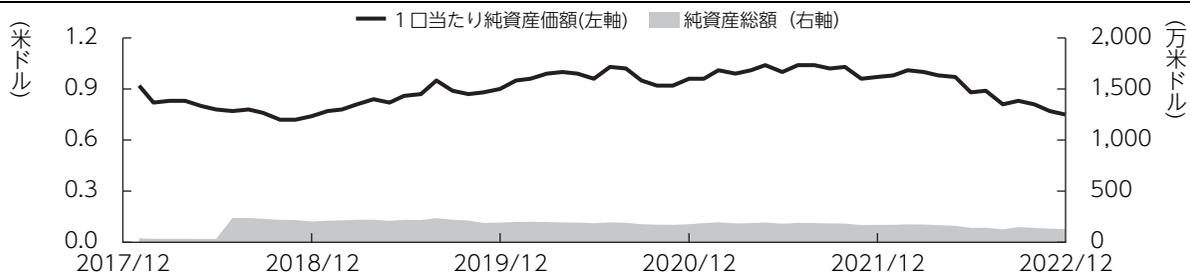
	円・クラス設定時 2018年 1月1日	第10期末 2018年 12月31日	第11期末 2019年 12月31日	第12期末 2020年 12月31日	第13期末 2021年 12月31日	第14期末 2022年 12月31日
1口当たり純資産価額(円)	78.74	58.31	70.59	71.56	80.12	69.48
1口当たり分配金額(円)	—	0	0	0	0	0
騰落率(%)	—	△25.95	+21.06	+1.37	+11.96	△13.28
純資産総額(百万円)	134	571	650	591	627	626

(注1) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

### サブファンド・グリーン 米ドル・クラス



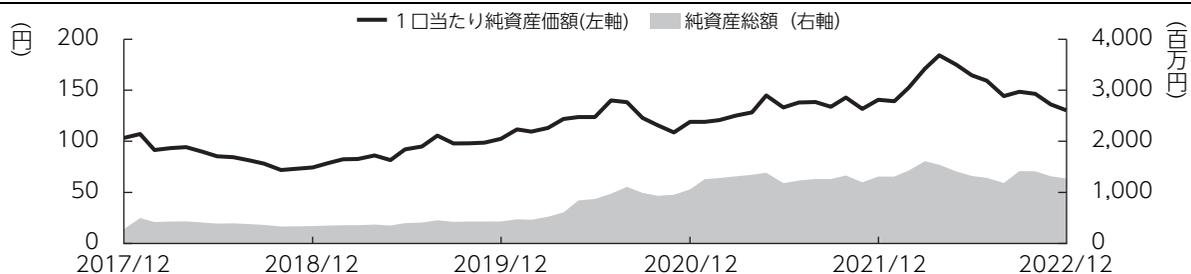
	米ドル・クラス設定時 2018年 1月1日	第10期末 2018年 12月31日	第11期末 2019年 12月31日	第12期末 2020年 12月31日	第13期末 2021年 12月31日	第14期末 2022年 12月31日
1口当たり純資産価額(米ドル)	0.86	0.74	0.90	0.96	0.97	0.75
1口当たり分配金額(米ドル)	—	0	0	0	0	0
騰落率(%)	—	△13.95	+21.62	+6.67	+1.04	△22.68
純資産総額(万米ドル)	35	203	192	176	170	129

(注1) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

## サブファンド・グリーン ゴールド円・クラス



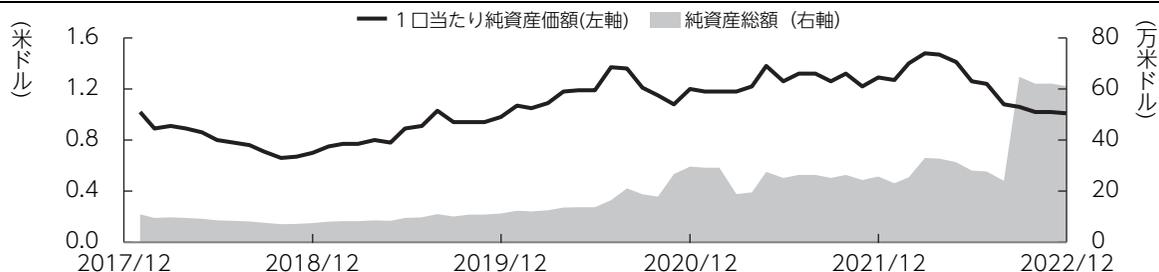
	第9期末 2017年 12月31日	第10期末 2018年 12月31日	第11期末 2019年 12月31日	第12期末 2020年 12月31日	第13期末 2021年 12月31日	第14期末 2022年 12月31日
1口当たり純資産価額(円)	103.35	74.42	102.38	118.95	140.71	130.32
1口当たり分配金額(円)	0	0	0	0	0	0
騰落率(%)	+29.03	△27.99	+37.57	+16.18	+18.29	△7.38
純資産総額(百万円)	286	339	432	1,058	1,308	1,271

(注1) 1口当たり純資産価額は、第9期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

## サブファンド・グリーン ゴールド米ドル・クラス



	ゴールド米ドル・ クラス設定時 2018年 1月1日	第10期末 2018年 12月31日	第11期末 2019年 12月31日	第12期末 2020年 12月31日	第13期末 2021年 12月31日	第14期末 2022年 12月31日
1口当たり純資産価額(米ドル)	0.95	0.70	0.98	1.20	1.29	1.01
1口当たり分配金額(米ドル)	—	0	0	0	0	0
騰落率(%)	—	△26.32	+40.00	+22.45	+7.50	△21.71
純資産総額(万米ドル)	10	7	11	30	24	61

(注1) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

## サブファンド・グリーン シルバー円・クラス (ファンドの運用は2022年9月から開始)



	シルバー円・クラス設定時 2022年 9月1日	第14期末 2022年 12月31日
1口当たり純資産価額(円)	100	99.55
1口当たり分配金額(円)	—	0
騰落率(%)	—	△0.45
純資産総額(百万円)	127	155

(注1) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

(注4) 当クラスは2022年9月より運用が開始されたため、2022年8月以前の情報がありません。

## サブファンド・グリーン シルバー米ドル・クラス (ファンドの運用は2022年9月から開始)



	シルバー米ドル・クラス設定時 2022年 9月1日	第14期末 2022年 12月31日
1口当たり純資産価額(米ドル)	1.00	1.12
1口当たり分配金額(米ドル)	—	0
騰落率(%)	—	+12.00
純資産総額(万米ドル)	233	262

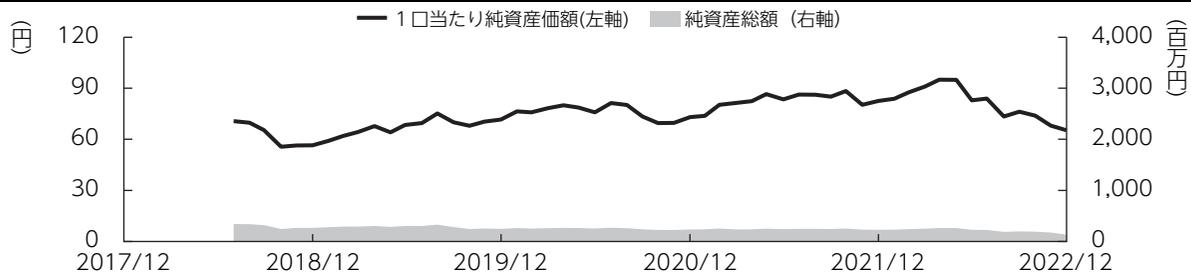
(注1) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

(注4) 当クラスは2022年9月より運用が開始されたため、2022年8月以前の情報がありません。

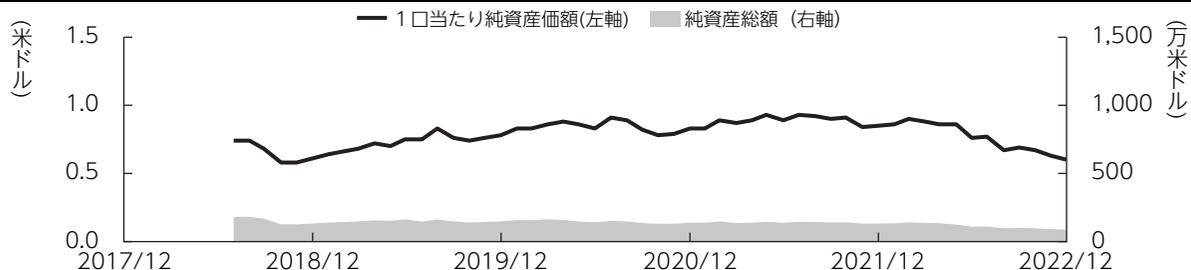
## サブファンド・グリーンC 円・クラス



	円・クラス設定時 2018年 7月1日	第10期末 2018年 12月31日	第11期末 2019年 12月31日	第12期末 2020年 12月31日	第13期末 2021年 12月31日	第14期末 2022年 12月31日
1口当たり純資産価額(円)	69.55	56.44	71.63	72.97	82.54	65.30
1口当たり分配金額(円)	—	0	0	0	0	0
騰落率(%)	—	△28.98	+26.91	+1.87	+13.11	△20.89
純資産総額(百万円)	337	265	245	235	228	135

- (注1) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。
- (注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。
- (注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。
- (注4) 当サブファンドは2018年7月より運用が開始されたため、2018年6月以前の情報がありません。

## サブファンド・グリーンC 米ドル・クラス



	米ドル・クラス設定時 2018年 7月1日	第10期末 2018年 12月31日	第11期末 2019年 12月31日	第12期末 2020年 12月31日	第13期末 2021年 12月31日	第14期末 2022年 12月31日
1口当たり純資産価額(米ドル)	0.74	0.61	0.78	0.83	0.85	0.60
1口当たり分配金額(米ドル)	—	0	0	0	0	0
騰落率(%)	—	△26.61	+27.87	+6.41	+2.41	△29.41
純資産総額(万米ドル)	181	132	147	137	132	87

- (注1) 1口当たり純資産価額は、設定時の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。
- (注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。
- (注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。
- (注4) 当サブファンドは2018年7月より運用が開始されたため、2018年6月以前の情報がありません。

## ■ 投資環境について

2022年の世界経済は、インフレ率の上昇とその根本的原因の解明、そしてそれを抑制するための対策に大きく影響を受けました。インフレ圧力は2021年当初から始まり、継続的な供給不足、世界的なCovid-19パンデミックの影響、ロシアのウクライナ侵攻、国際エネルギー危機によって悪化しました。米国経済は、2021年は年率5.6%の成長を遂げましたが、2022年の大半は経済成長の鈍化に見舞われました。GDPは2022年最初の半年にかけて減少しましたが、第3四半期は、個人消費の拡大、賃金の上昇、雇用の増加、パンデミック時に積み立てた貯蓄などに支えられ、GDPが回復し、約3.2%の増加となりました。

株価指数については、理想的な年明けではありませんでした。2008年以来（リーマンショック以降）上昇を続けてきたいくつかの株式市場が大きな打撃を受け、特に米国は最も結果の良くない地域（セクター）のひとつでした。S&P500の下落幅の約半分を「メガキャップ」6社（Amazon、Apple、Alphabet、Microsoft、Meta Platform、Tesla）が占めていましたが、米国の主要企業の多くが数十億ドルを失う急激な株価下落に見舞われました。またナスダックは年間33.0%以上下落し、FRBの積極的なインフレ抑止政策がテクノロジー株や成長株に悪影響を及ぼしたため、マイナスになりました。英国株式は、他の多くのグローバル市場よりも回復力がありました。というのも、エネルギー関連銘柄の堅調な伸びと大きな為替差益に支えられたためです。また欧州の他の地域では、欧州株式市場が、高インフレ、ウクライナ戦争、イングランド銀行とECBによる金融引き締めが主要要因となり、年初において下落に転じました。しかし、これらの市場では、第4四半期にインフレ予想と石油・ガス・食料の大幅な価格上昇の両方が沈静化し、コスト圧力が幾分低下したため、大きな上昇を記録しました。アジアでは、出入国規制の正常化に伴う中国の株式市場への楽観的な見方により、2022年後半に株式が回復しましたが、あいにくアジア地域の主要指数をプラスに押し上げるほど大きなインパクトはありませんでした。

通常、株式が下落すると債券の価値が上昇するため、債券投資は安全な避難先とされていますが、その見込みは2022年には通用せず、株式と債券の両方のセクターで二桁の損失を被ることになりました。世界の債券市場では、主に中央銀行がインフレ対策として金利を引き上げたことが原因で、損失が発生しました。米国債券は、ここ数十年で最悪の年間リターンを記録し、10年物国債は約15%下落し、2年連続で損失を計上しました。米国債利回り（短期債と長期債の金利差）は、1年間の大半は逆イールドの状況でした。歴史的に、イールドカーブが反転することはしばしば景気後退の兆候とされてきましたが、一方で他の経済指標は、深刻な景気後退の可能性が低いことを示唆する状況も見受けられました。ドイツと英国の10年物国債の利回りは、これまでで最も高い年間上昇率を記録しましたが、イングランド銀行は、9月28日から10月14日まで、市況回復のために英国長期国債を一時的に買い入れることを発表しました。これまでユーロ圏の債券市場は、ECBの量的緩和とゼロ金利の影響により、価格変動が小さいことで知られていました。これは国債市場が、欧州市場の猛烈なインフレとそれに対処するための政策決定に関する不確実性にかき乱されたためです。またインフレ圧力は、中東、アフリカ、南米、カナダ、メキシコの経済にも影響を与え、インフレ率の上昇はこれらの国々からの輸入品をより高価にし、中央銀行は金利の引き上げを余儀なくされました。中央銀行は利

上げのペースと範囲の拡大が経済を悪化していることを認めましたが、消費者物価指数の低下が優先されました。

コモディティ分野では、既に2021年末に上昇していたエネルギー価格が、ロシアのウクライナ侵攻を契機に高騰しましたが、複数の国がロシアに対して制裁や貿易制限を課し、その結果ロシアの製油所の生産能力が低下しました。しかし、中国のエネルギー需要がCovid-19関連の規制により著しく減少したこと、ロシアの原油生産が安定したこと、米国の原油生産が増加したこと、戦略石油備蓄から原油が放出されたことなどにより、エネルギー価格はやや安定化しました。金にとって2022年は最も不安定な年のひとつとなりました。主に2月にロシアとウクライナの紛争が激化したために、金価格は2022年3月に2,075ドルの高値まで上昇しました。が、その後まもなく、株式市場の低迷、ドル為替レートの上昇、米国がウクライナ紛争に介入しなかったことなどが原因で後退しました。銀に関しては、2022年には金を上回り、3.52%のリターンで1年を終えました。工業用金属は、中国の経済復活とその回復に伴う工業生産高の向上を目指していましたが、低迷する結果となりました。農産物については、トウモロコシと大豆の価格高騰に見られるように、インフレは食品にも影響を与えました。ウクライナ戦争は、穀物の主要な輸送ルートが寸断されたため、世界の農業生産にマイナスの影響を与えました。しかし、トルコの仲裁により、キーウとモスクワの間でウクライナ産穀物の輸出に関する合意が成立し、状況は緩和されました。

2022年の外国為替市場は、米ドルが世界のほとんどの通貨に対して強く上昇し、外貨安をもたらし、財・サービス価格の上昇に影響をもたらしました。高インフレに対抗するためにFRBが金利を引き上げたため、米ドルは急激に上昇しました。これは、ロシアのウクライナ侵攻やエネルギー価格の高騰により、欧州経済が景気後退に向かうという市場の見立てを示すもので、2022年7月12日に20年ぶりにユーロが対米ドルで等価となりました（1ユーロ=1米ドル）。英国では、リス・トラス首相（当時）の減税案により、英国の金融・財政政策が衝突し、中央銀行が危険に晒されるおそれがありました。このような政策がもたらす潜在的な負担は英国市場に大きな圧力を与え、英国ポンドは2022年9月に対米ドルで1.035という史上最低水準まで急落しました。日本円は、投資家にとって典型的な安全資産と言われていますが、Covid-19から日本経済が徐々に再開されるにつれ、2022年の値動きが活発化しました。日本銀行の非伝統的なユニークな金融政策によって日本円は支えられたものの、依然、強い米ドルに対して円安が進行しました。

2022年の株式市場の混乱は、分散投資が依然として有効な面もありますが、過去に比べればその効果が薄れている可能性があることを示しました。

## ■ ポートフォリオについて

<当サブファンド>

当サブファンドは、マスターファンドへの投資によって当該マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。結果、マスターファンドへの投資比率は、概ね95%以上を維持しました。

<マスターファンド>

マスターファンドは、アンダーライング・マスターファンドへの投資によって当該アンダーライング・マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。

<アンダーライング・マスターファンド>

アンダーライング・マスターファンドは、主に世界各国の取引所に上場されている様々な先物取引等に投資しました。トレンドフォロー戦略を中心としたマネージドフューチャーズ（グリーン戦略）により、下記7つのセクターに分散投資しました。

【株式指数】 【債券】 【通貨】 【金属】 【穀物】 【農作物】 【エネルギー】

当ファンドが採用するマネージドフューチャーズ戦略は、中長期トレンドに追随するトレンドフォロー戦略を中核として、約150の様々な指数を投資対象としております。当ファンドは、2022年前半は昨年からのトレンドが継続し、安定的なパフォーマンスを実現しておりましたが、夏場以降、コモディティ市場を中心に方向感の定まらない市場の増加とともに、パフォーマンスの低下が継続しました。様々な市場でプラスのパフォーマンスが獲得できない中、じりじりと下落が継続し、結果、年間を通して2桁のマイナスとなりました。

また1,800米ドル台で始まった金価格も、3月には2,000米ドル台まで上昇しました。その後10月には1,600米ドル台まで下落、年末に若干のリバウンドにより1,800米ドル台に戻して一年を終えました。

## ■ ベンチマークとの差異について

当サブファンドにはベンチマーク及び参考指数はありません。

## ■ 分配金について

当サブファンドには分配金はありません。

# 今後の運用方針

今後の運用方針については、これまでの投資方針が引き続き採用され、マスターファンドへの投資を通じてアンダーライニング・マスターファンドと同一の投資目的を追求する予定です。

## お知らせ

特にありません。

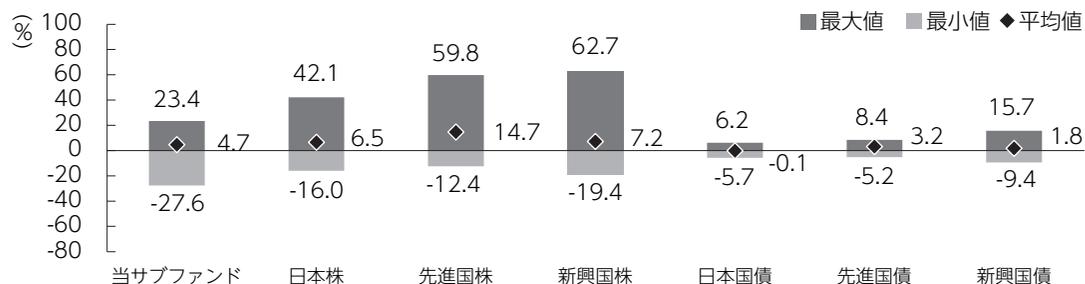
## 当サブファンドの概要

ファンド形態	ケイマン籍 オープンエンド契約型外国投資信託（円建て、米ドル建て）	
信託期間	信託設定日は2009年6月5日、償還日は設定日から150年後	
運用方針	マスターファンド投資顧問会社が随時選定するテクニカル分析ソフトウェアを使用したトレーディング・シグナルに基づいて投資活動を行います。 マスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドは、投資機会を活かし、最新のトレーディング戦略を利用する予定であるため、将来の運用について、現時点で既定されたものではなく、またいかなる制限を受けるものでもありません。マスターファンド投資顧問会社は、アンダーライニング・マスターファンドが上場先物及び店頭デリバティブ（外国為替取引を含みます。）の取引においてレバレッジを用いることにより高い収益が見込めると判断したときに、レバレッジを利用することができます。	
主要投資対象	当サブファンド	スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPC及びスーパーファンド・グリーンSPC
	マスターファンド	スーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスターSPC、スーパーファンド・グリーン・マスター、現金及び銀先物
	アンダーライニング・マスターファンド	世界各国の取引所に上場されている様々な先物取引（株式指数、債券、通貨、金利、金属、穀物、農作物、エネルギー）への分散投資、及び金先物
組入制限	当ファンドのサブファンド「グリーン」及び「グリーンC」の資産は管理会社により運用され、管理会社はサブファンド「グリーン」の円・クラス、米ドル・クラス、シルバー円・クラス、シルバー米ドル・クラス資産のすべてをスーパーファンド・グリーンSPCのシェア（株式）に、ゴールド円・クラス及びゴールド米ドル・クラス資産のすべてをスーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCのシェア（株式）に、サブファンド「グリーンC」の円・クラス及び米ドル・クラス資産のすべてをスーパーファンド・グリーンSPCのシェア（株式）に投資します。	
分配方針	現段階では分配を行う予定はありません。但し、管理会社はその裁量で分配を決定する権利を留保しています。	

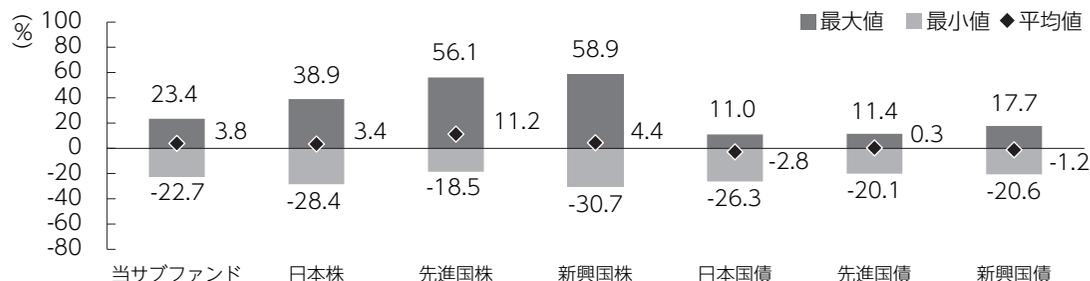
## (参考情報)

# ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

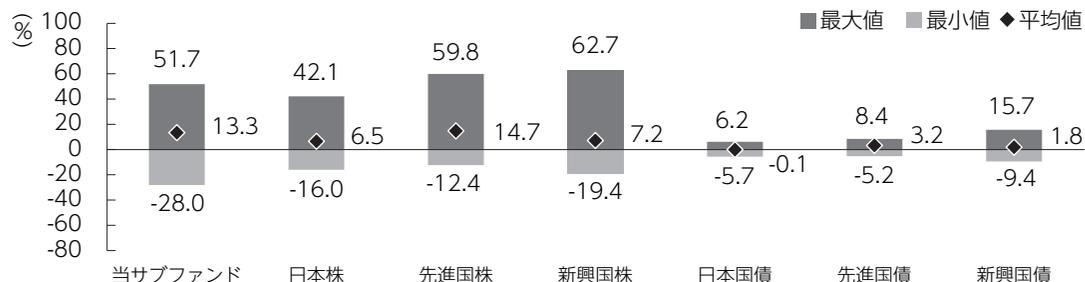
## サブファンド・グリーン 円・クラス



## サブファンド・グリーン 米ドル・クラス



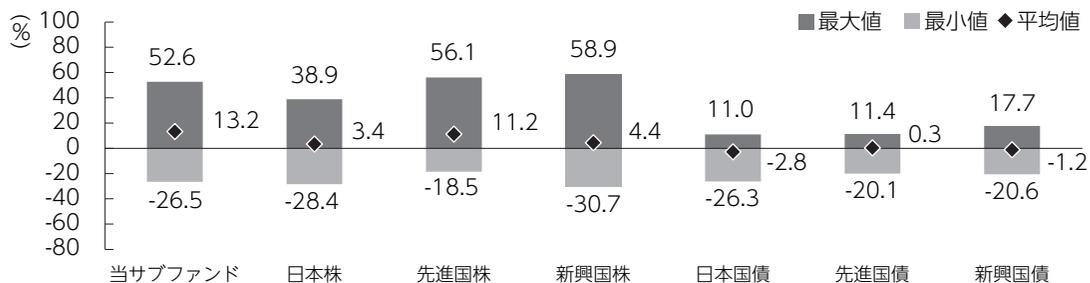
## サブファンド・グリーン ゴールド円・クラス



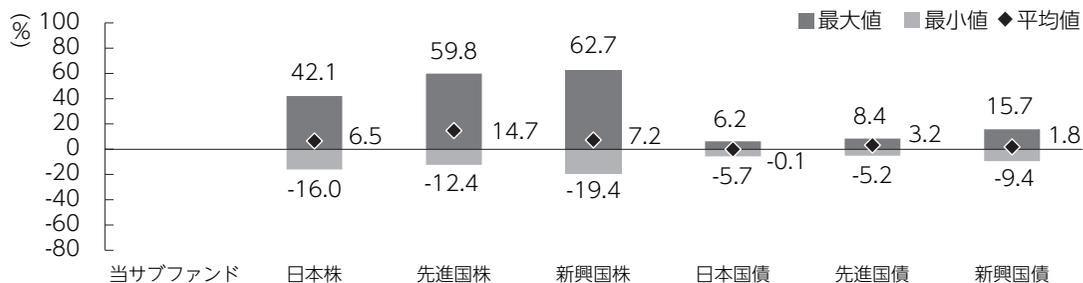
(注1) 全ての資産クラスが当サブファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2018年1月から2022年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値をファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

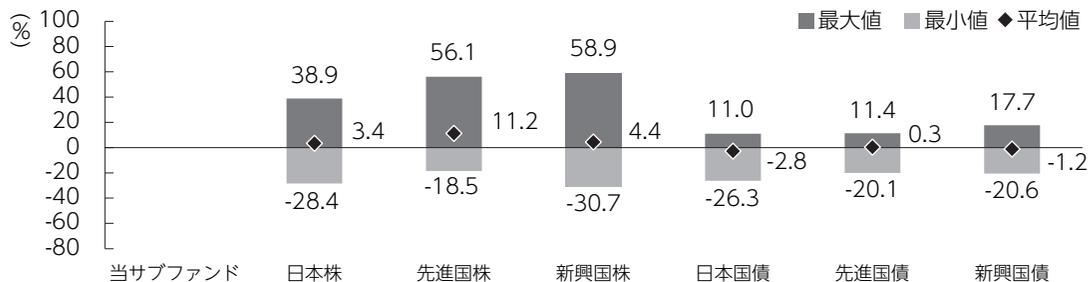
## サブファンド・グリーン ゴールド米ドル・クラス



## サブファンド・グリーン シルバー円・クラス



## サブファンド・グリーン シルバー米ドル・クラス

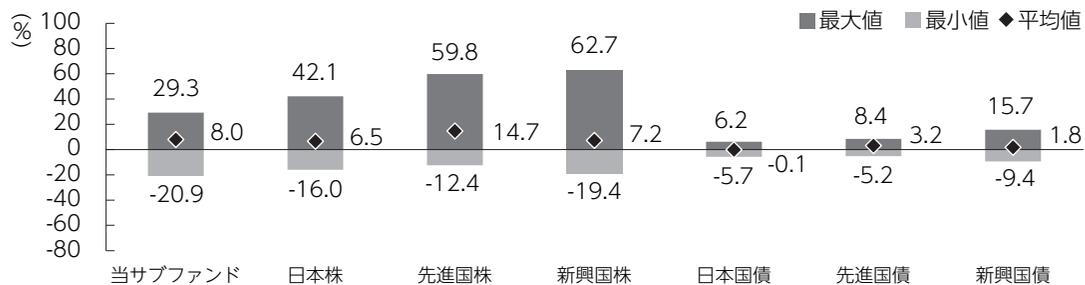


(注1) 全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

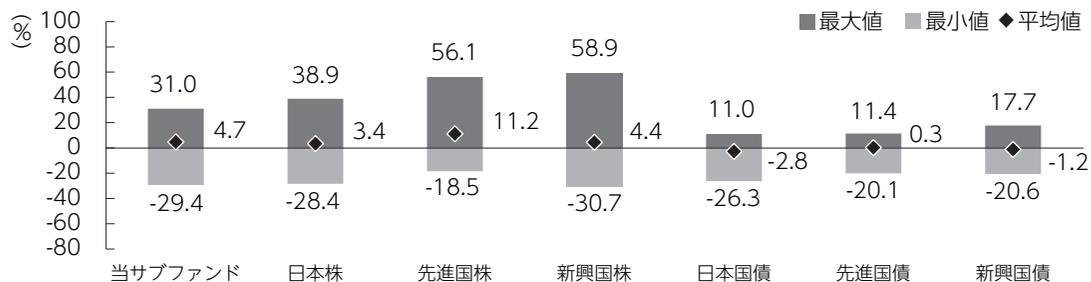
(注2) 2018年1月から2022年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注3) シルバー円・クラス及びシルバー米ドル・クラスは2022年9月に運用を開始したため、年間騰落率の最大値・最小値・平均値は記載していません。

## サブファンド・グリーンC 円・クラス



## サブファンド・グリーンC 米ドル・クラス



(注1) 全ての資産クラスが当サブファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2018年1月から2022年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値をファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

## ○各資産クラスの指数

### 円・クラス、ゴールド円・クラス、シルバー円・クラス

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込)

先進国株……MSCI-KOKUSA I 指数 (配当込) (円ベース)

新興国株……MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込) (円ベース)

日本国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (日本) (円ベース)

先進国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (除く日本) (円ベース)

新興国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド

※新興国債の指数は、各月末時点の為替レートにより円換算しています。

### 米ドル・クラス、ゴールド米ドル・クラス、シルバー米ドル・クラス

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込)

先進国株……MSCI-KOKUSA I 指数 (配当込) (米ドルベース)

新興国株……MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込) (米ドルベース)

日本国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (日本) (米ドルベース)

先進国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (除く日本) (米ドルベース)

新興国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (米ドルベース)

※日本株の指数は、各月末時点の為替レートにより米ドル換算しています。

# ファンドデータ

## ■ 当サブファンドの組入資産の内容 (2022年12月31日現在)

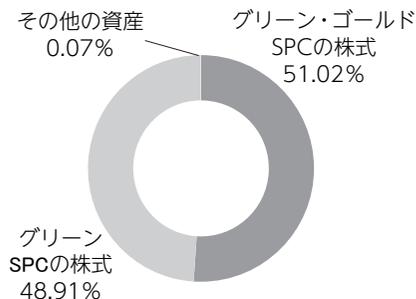
### ■ サブファンド・グリーン

【組入ファンド】 (組入銘柄数：2銘柄)

資産の種類	組入比率
スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCの株式 (クラスBジャパン (円) 及びクラスBジャパン (米ドル) 株式) (以下、本ページにおいて「グリーン・ゴールドSPCの株式」と表記)	51.02%
スーパーファンド・グリーンSPCの株式 (クラスジャパン (円) 株式、クラスジャパン (米ドル) 株式、クラスシルバー (米ドル) 株式及びクラスシルバー (円) 株式) (以下、本ページにおいて「グリーンSPCの株式」と表記)	48.91%
現金、受取債券及びその他資産	0.07%

(注) 組入比率は、各クラスが各々対応するマスターファンドに高位に投資しておりますが、クラス毎の計算書類は存在しないため、サブファンドの財務書類の記載に基づき記載しています。以下グラフも同様です。

#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】



#### 【通貨別配分】



(注) 通貨別配分につき、通貨ヘッジはしておりません。

## ■ 純資産等 (2022年12月31日現在)

項目	第14期末
純資産総額	2,645,081,503円
発行済口数	24,989,480口
1口当たり純資産価額	105.85円

(注1) 純資産総額及び発行済口数は、当サブファンドの財務書類の記載によります。

(注2) 為替レート 1米ドル=135.15円 (2023年5月10日現在)

(注3) 当期中における追加設定元本額1,221,297,621円、一部解約元本額は1,042,771,994円です。

## サブファンド・グリーンC

【組入ファンド】（組入銘柄数：1 銘柄）

資産の種類	組入比率
スーパーファンド・グリーンSPCの株式（クラスCジャパン（円）株式及びクラスCジャパン（米ドル）株式） （以下、本ページにおいて「グリーンSPCの株式」と表記）	96.17%
現金、受取債券及びその他資産	3.83%

（注）組入比率は純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。以下円グラフも同様です。



（注）通貨別配分につき、通貨ヘッジはしていません。

## ■ 純資産等（2022年12月31日現在）

項目	第14期末
純資産総額	248,456,818円
発行済口数	3,499,653口
1口当たり純資産価額	70.99円

（注1）純資産総額及び発行済口数は、当サブファンドの財務書類の記載によります。

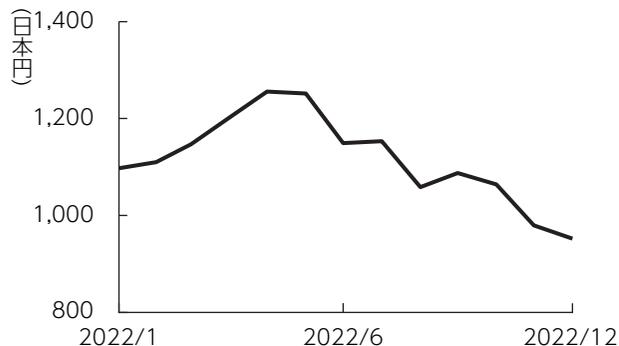
（注2）為替レート1米ドル=135.15円（2023年5月10日現在）

（注3）当期中における一部解約元本額は61,802,151円です。

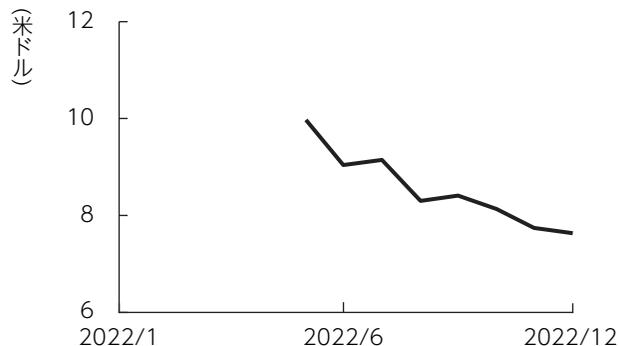
## ■ 投資先ファンドの概要 (2022年1月1日～2022年12月31日)

### ■ スーパーファンド・グリーンSPC (マスターファンド) 分別ポートフォリオB

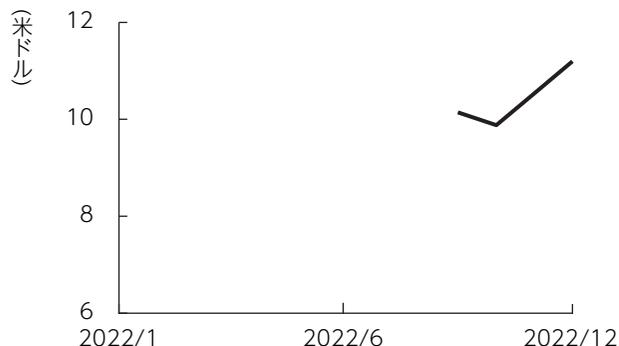
【クラスジャパン (円) の1口当たり純資産価額の推移】



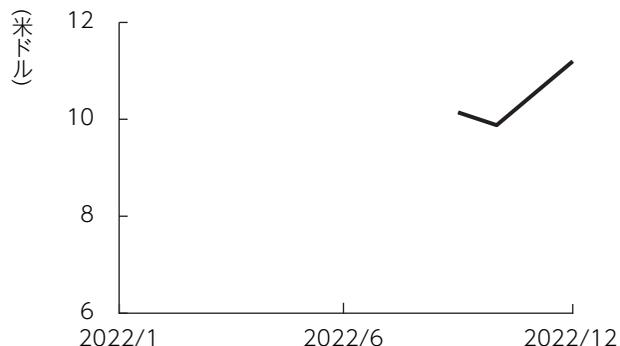
【クラスジャパン (米ドル) の1口当たり純資産価額の推移】



【クラスシルバー (円) の1口当たり純資産価額の推移】



【クラスシルバー (米ドル) の1口当たり純資産価額の推移】



### 【保有銘柄情報】 (組入銘柄数：1銘柄)

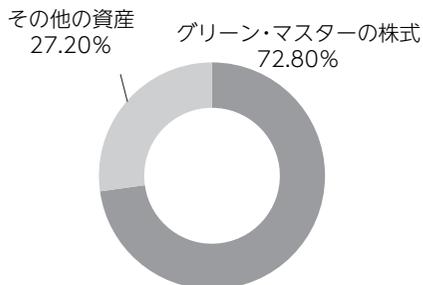
資産の種類	組入比率
スーパーファンド・グリーン・マスターの株式 (以下「グリーン・マスターの株式」と表記)	72.80%
現金、受取債権及びその他の資産	27.20%

【費用の明細】 (2022年1月1日～2022年12月31日)

項目	項目の概要	
管理報酬	分別ポートフォリオB・クラスジャパン (円)、クラスジャパン (米ドル)、クラスシルバー (円) 及びクラスシルバー (米ドル) 株式の純資産価額の年率2.00%	
成功報酬	分別ポートフォリオB・クラスジャパン (円)、クラスジャパン (米ドル)、クラスシルバー (円) 及びクラスシルバー (米ドル) 株式の純資産価額の増加額のうち毎月20% (銀価格の上昇のみに起因する価額増加を排除したハイウォーターマーク方式を適用)	
販売会社報酬	販売会社が申込を取り扱った受益証券の純資産価額の年率1.8%	
事務管理報酬	事務管理報酬	分別ポートフォリオBにつき年間5,400米ドル
	年次財務諸表の作成	スーパーファンド・グリーンSPCにつき年間1,500米ドル
	ポータルサイトへのFATCAデータのアップロード	スーパーファンド・グリーンSPCにつき年間500米ドル
	ポータルサイトへのCRSデータのアップロード	スーパーファンド・グリーンSPCにつき年間500米ドル
その他の費用(当期)	監査費用、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用 0.35%	

(注) 各報酬については、当サブファンドの目論見書に定められている料率を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

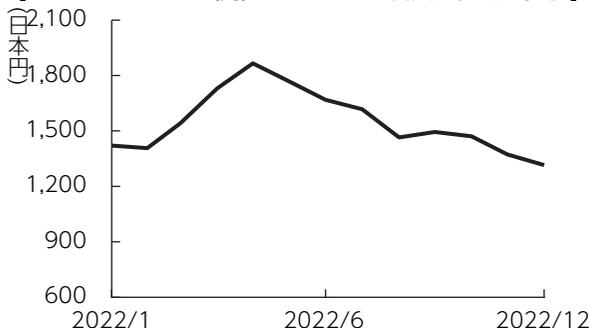


(2022年12月31日現在)

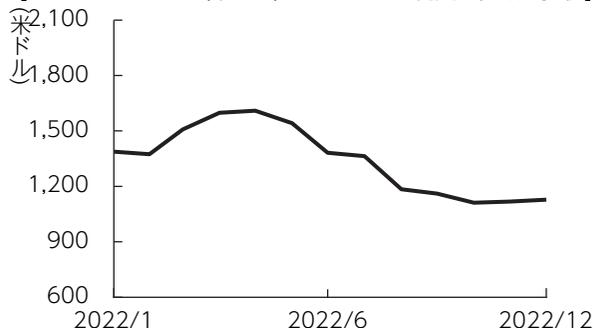
(注) 通貨別配分につき、通貨ヘッジはしていません。

## スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPC (マスターファンド) 分別ポートフォリオB

【クラスBジャパン(円)の1口当たり純資産価額の推移】



【クラスBジャパン(米ドル)の1口当たり純資産価額の推移】



### 【保有銘柄情報】 (組入銘柄数: 1銘柄)

資産の種類	組入比率
スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCの株式 (以下「ゴールド・マスターの株式」と表記)	73.81%
現金、受取債権及びその他の資産	26.19%

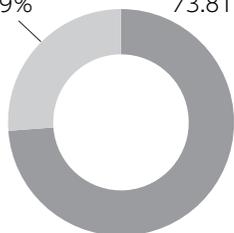
### 【費用の明細】 (2022年1月1日～2022年12月31日)

項目	項目の概要	
管理報酬	分別ポートフォリオB・クラスBジャパン (円) 株式及びクラスBジャパン (米ドル) 株式の純資産価額の年率2.00%	
成功報酬	分別ポートフォリオB・クラスBジャパン (円) 株式及びクラスBジャパン (米ドル) 株式の純資産価額の増加額のうち毎月20% (但し、ハイウォーターマーク方式を適用)	
販売会社報酬	販売会社が申込を取り扱った受益証券の純資産価額の年率1.8%	
事務管理報酬	事務管理報酬	分別ポートフォリオBにつき年間5,700米ドル
	年次財務諸表の作成	スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCにつき年間1,500米ドル
	ポータルサイトへのFATCAデータのアップロード	スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCにつき年間500米ドル
	ポータルサイトへのCRSデータのアップロード	スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCにつき年間500米ドル
その他の費用(当期)	監査費用、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用 0.24%	

(注) 各報酬については、当サブファンドの目論見書に定められている料率を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

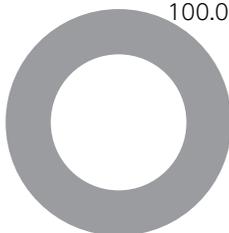
### 【資産別配分】

その他の資産 26.19%      ゴールド・マスターの株式 73.81%



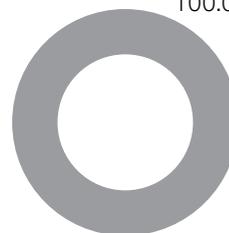
### 【国別配分】

ケイマン諸島 100.00%



### 【通貨別配分】

米ドル 100.00%



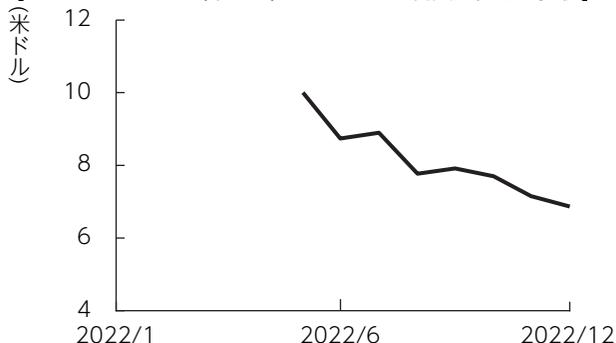
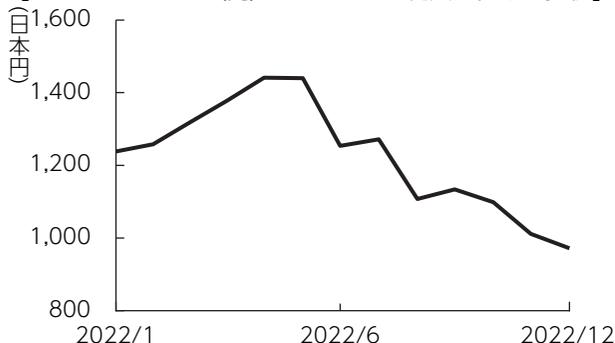
(注) 通貨別配分につき、通貨ヘッジはしていません。

(2022年12月31日現在)

## スーパーファンド・グリーンSPC（マスターファンド） 分別ポートフォリオC

【クラスCジャパン（円）の1口当たり純資産価額の推移】

【クラスCジャパン（米ドル）の1口当たり純資産価額の推移】



### 【保有銘柄情報】（組入銘柄数：1銘柄）

資産の種類	組入比率
グリーン・マスターの株式	97.77%
現金、受取債権及びその他の資産	2.23%

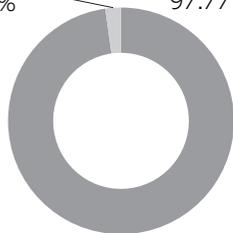
### 【費用の明細】（2022年1月1日～2022年12月31日）

項目	項目の概要
管理報酬	分別ポートフォリオC・クラスCジャパン（円）及びクラスCジャパン（米ドル）株式の純資産価額の年率2.00%
成功報酬	分別ポートフォリオC・クラスCジャパン（円）及びクラスCジャパン（米ドル）株式の純資産価額の増加額のうち毎月20%（但し、ハイウォーターマーク方式を適用）
販売会社報酬	販売会社が申込を取り扱った受益証券の純資産価額の年率1.8%
事務管理報酬	事務管理報酬 分別ポートフォリオCにつき年間5,400米ドル
	年次財務諸表の作成 スーパーファンド・グリーンSPCにつき年間1,500米ドル
	ポータルサイトへのFATCAデータのアップロード スーパーファンド・グリーンSPCにつき年間500米ドル
事務管理報酬	ポータルサイトへのCRSデータのアップロード スーパーファンド・グリーンSPCにつき年間500米ドル
	その他の費用(当期) 監査費用、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用 0.60%

（注）各報酬については、当サブファンドの目論見書に定められている料率を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

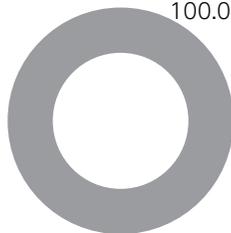
### 【資産別配分】

その他の資産 2.23%  
グリーン・マスターの株式 97.77%



### 【国別配分】

ケイマン諸島 100.00%



### 【通貨別配分】

米ドル 100.00%



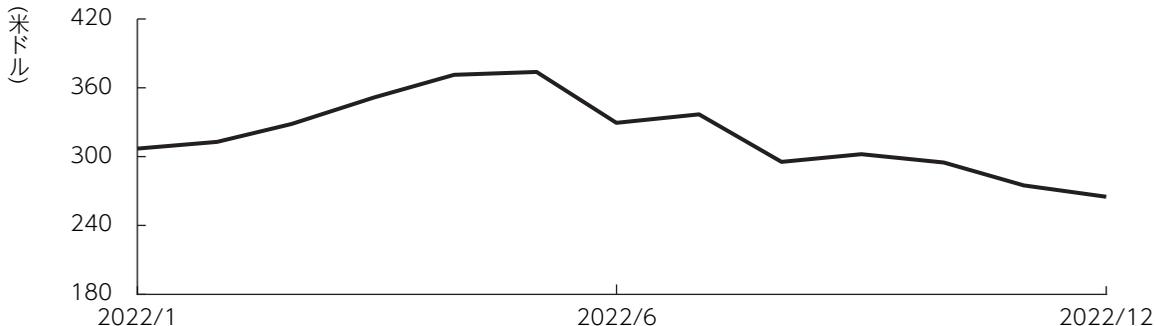
（注）通貨別配分につき、通貨ヘッジはしておりません。

（2022年12月31日現在）

## ■ 投資先ファンドの概要 (2022年1月1日～2022年12月31日)

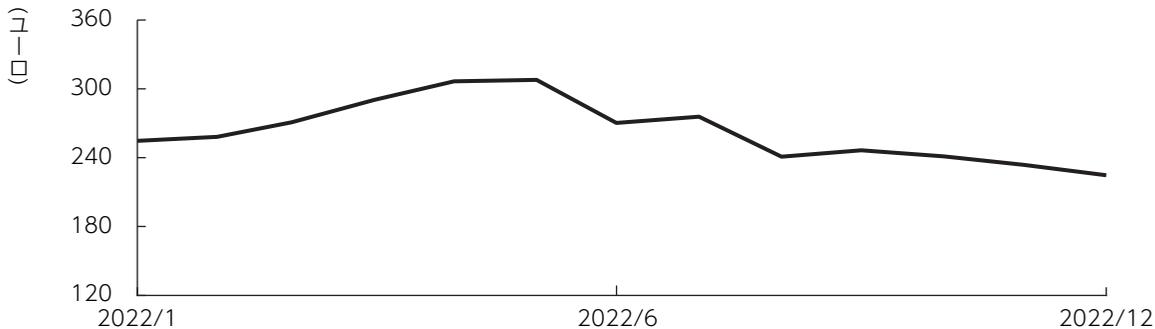
### スーパーファンド・グリーン・マスター (アンダーライング・マスターファンド) クラスB

#### 【1口当たり純資産価額の推移】



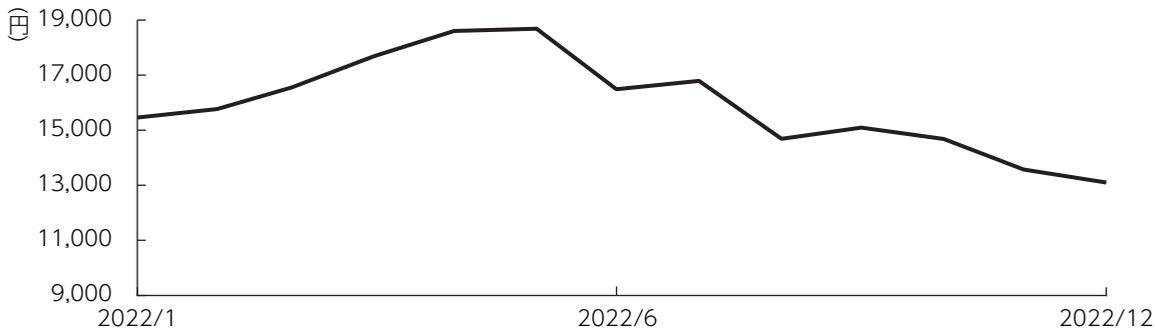
### スーパーファンド・グリーン・マスター (アンダーライング・マスターファンド) クラスC

#### 【1口当たり純資産価額の推移】



### スーパーファンド・グリーン・マスター (アンダーライング・マスターファンド) クラスE

#### 【1口当たり純資産価額の推移】



## 【費用の明細】

(2022年1月1日～2022年12月31日)

項目	項目の概要	
事務管理報酬	事務管理報酬	純資産の4.2ベースポイント／年間0.042% (毎月4.2ベースポイントの12分の1) 但し、各ファンドにつき最低毎月1,500米ドル ファンドの純資産の50百万米ドルを超える部分：2.45ベースポイント ファンドの純資産の100百万米ドルを超える部分：0.7ベースポイント
	年次財務諸表の作成	スーパーファンド・グリーン・マスターにつき年間1,500米ドル
	ポータルサイトへのFATCAデータのアップロード	スーパーファンド・グリーン・マスターにつき年間500米ドル
	ポータルサイトへのCRSデータのアップロード	スーパーファンド・グリーン・マスターにつき年間500米ドル
その他の費用(当期)	信託事務の処理に要する諸費用 0.86%	

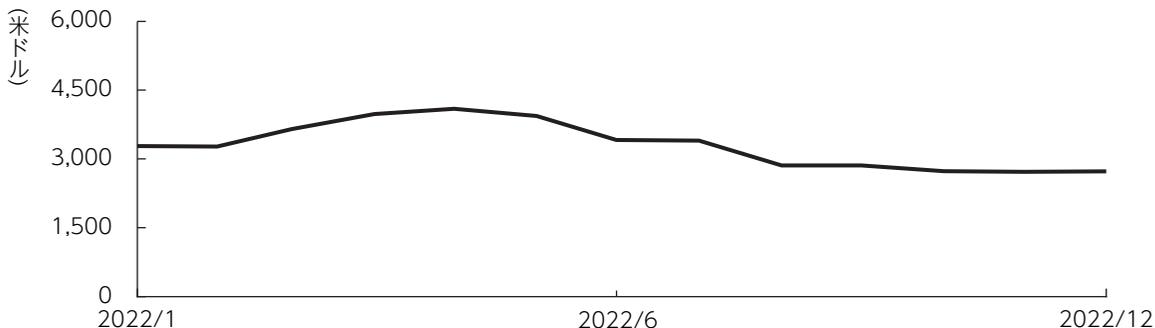
(注) 各報酬については、当サブファンドの目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【保有銘柄情報】、【資産別配分】、【国別配分】及び【通貨別配分】については、アンダーライニング・マスターファンドが、世界の主要先物市場における先物を中心に運用しており、オン・バランス資産のほとんどは証拠金であり、その配分は随時変動していることから、一定の時点におけるこれらの情報を開示することに大きな意味がないため、開示しておりません。

(2022年12月31日現在)

## スーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスターSPC (アンダーライング・マスターファンド)

### 【1口当たり純資産価額の推移】



### 【費用の明細】

(2022年1月1日～2022年12月31日)

項目	項目の概要	
事務管理報酬	事務管理報酬	純資産の4.2ベースポイント/年間0.042% (毎月4.2ベースポイントの12分の1) 但し、各ファンドにつき最低毎月1,375米ドル ファンドの純資産の50万米ドルを超える部分：2.45ベースポイント ファンドの純資産の100万米ドルを超える部分：0.7ベースポイント
	年次財務諸表の作成	スーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスターSPCにつき年間1,500米ドル
	ポータルサイトへのFATCAデータのアップロード	スーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスターSPCにつき年間500米ドル
	ポータルサイトへのCRSデータのアップロード	スーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスターSPCにつき年間500米ドル
その他の費用(当期)	信託事務の処理に要する諸費用 0.18%	

(注) 各報酬については、当サブファンドの目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【保有銘柄情報】、【資産別配分】、【国別配分】及び【通貨別配分】については、アンダーライング・マスターファンドが、世界の主要先物市場における先物を中心に運用しており、オン・バランス資産のほとんどは証拠金であり、その配分は随時変動していることから、一定の時点におけるこれらの情報を開示することに大きな意味がないため、開示しておりません。

(2022年12月31日現在)